

乗鞍岳の高山動物

乗鞍岳の高い山の斜面には、高地で生き残ることに適応した哺乳類、鳥、昆虫などが生息しています。最も有名なのは国の天然記念物のライチョウで、他にも数十種類の高山種が見られます。

ライチョウは、岐阜県と長野県の両方の県鳥です。主に地上で生活するこの鳥は、低木林やカモフラージュを利用することで身を守り、季節ごとに羽毛を変えます。春は、雌よりも雄の方が見つけやすいです。上半身は灰色、茶色、黒の斑点があり、腹と翼は白く、赤いとさかを持っています。夏の雌はほとんど茶色の斑点模様です。冬になると、雌雄ともに目の周りの黒いアイストライプと外側の尾羽を除いて白色になります。雄はいつもと異なる鳴き声を出します。

茶白の斑点のあるホシガラスは、低木のハイマツを主食としています。くちばしの下には喉袋があり、一度に 200 粒もの松の種を入れることができるため、ヒナに餌を与えに戻るまでに、長い時間をかけて採集することができます。鳥は餌を山中の、後で 70～80%の確率で発見できる場所に隠しておきます。見逃した種は発芽して成長するので、鳥は「ハイマツ・プランター」というニックネームが付けられています。

日本で一番小さい鳥はキクイタダキです。目の周りが白く、オスは人の気配を感じたときや仲間を探すときに、黄色い目立つとさかを上げます。重さは 5 グラムほどしかありませんが、この厳しい気候の中で生き延びることができます。

他にも、ハイマツの中に隠れているシャイなカヤクグリや、その外見がそっくりで人間がいてもあまり気にしない社交的な、黄色いくちばしのイワヒバリも必見です。

乗鞍岳の哺乳類には、春には茶色でお腹が白く、冬には尾の先に小さな黒点がある以外は真っ白になるオコジョがいます。ツキノワグマもよく目撃され、乗鞍岳の宿では最近のクマの目撃情報を地図で掲示しています。もし熊に遭遇したら、100 メートル以上離れて、攻撃を促す可能性があるためフラッシュ撮影はしないようにしましょう。